

「電力自由化」ってなんだ？

～来年4月から家庭や小規模事業者も電力自由化が始まります～

一般家庭が使用する低圧電氣は、これまで地域ごとに決められた一般電氣事業者との契約のみで、江戸川区の家庭は「東京電力」からしか電氣を買いませんでした。いよいよ来年2016年4月から、さまざまな小売電力事業者（東京電力もその一つになる）の中から自由に選べる小売電力自由化が始まります。その可能性と課題を考えます。

電力自由化の流れ

日本では1951年の電氣事業再編成以来、長らく九電力（※）の地域独占体制で電力供給を行ってきました。世界的な規制緩和の流れもあり、ようやく電力システム改革として、1995年の電氣事業法改正からこれまで、段階的に電力自由化が進められてきました。新しい電氣事業者の参入や特定規模電氣事業者の小売が認められ、現在は、国内電力の6割にあたる大口需要家や一定規模以上の建築物などへの電力供給が自由化されています。自治体でも新電力への切り替えが行われており、江戸川区の小中学校の電力契約先は東京電力ではありません。

残り4割を占める50kw以下の一般家庭や小規模商店事業所などの小口需要家も、ついに2016年4月に自由化となります。

電氣は送電配電網を通じて各家庭に送られますが、その送電配電事業は当面、東京電力などの大手電力会社が運用。東京電力は「テポコホールディングス」という持ち株会社として「発電会社」「小売会社」「送電会社」に分割され、送電会社が全国でまとめられ「電力広域運用推進機関」として、2020年に独立します。

電氣を選ぶってどういうこと？

自由化で電力会社を選ぶのですから「自然エネルギーで発電した電氣を使いたい」「原発に関連する事業者の電氣は使いたくない」と考える方もいるでしょう。ただ、電氣の性質を考えれば遠方の風力発電や太陽光発電の電氣を直接家庭に届けてもらうことは不可能です。基本的に発電した電氣は近隣の消費地から使われていきます。

送電網自体を大きな池と考え、その中に風力や太陽光、火力発電などの電氣をそれぞれが系統に流し、私たち消費者はその池から電氣を受け取るわけです。つまり供給は「玉突き」原理と言えばよいでしょう。

小売事業者が電力をどのように調達しているのか、きちんと見極めることが大切です。

エネルギーシフトの実現へ

いずれにしても、2020年までにエネルギー産業市場が大きく変わっていくことは間違いありません。来年4月に向けて、新規参入の小売電氣事業者は低廉な電氣料金、電力以外のセットサービスなど、さまざまなメニューを出してきます。

小口需要家の市場は7.5兆円と言われ、特に首都圏の消費者をターゲットに既存の中部電力や関西電力が乗り込む話や、逆に東電は通信会社やコンビニなどと提携し、ポイントサービスなど全国展開する話が報じられています。大手エネルギー産業、大手家電、通信会社など多様な小売電力業者が誕生し、電力業界に参入してきます。

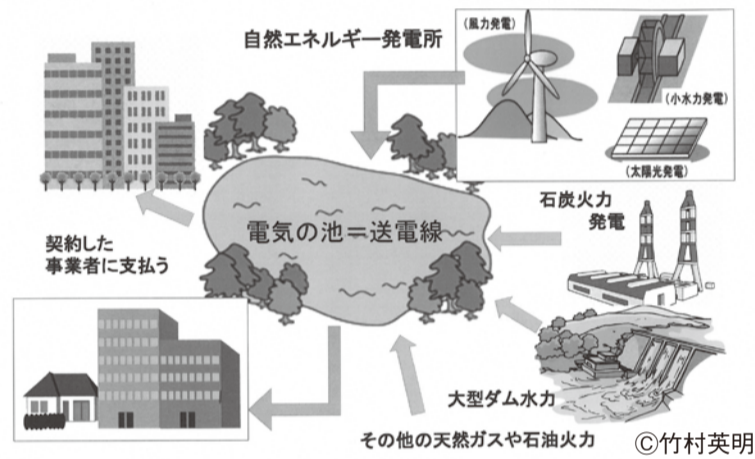
しかし、まずは電力改革として送電網を既存電力業界の支配下から中立公正の広域運用にすること、大手電力会社は経営を効率化し、一般家庭の電氣料金に押し付けている原発処理や維持のコストを見直すことをすべきです。また、新たな小売電氣事業者には、電源構成の明示と料金体系の透明化で、これまでの独占体制でブラックボックス化していた電力業界に、まっとうな競争原理の風を吹き込むことを望みたいものです。

私たち消費者は、目先の料金やサービスに惑わされることなく、持続可能なエネルギーが推進される社会をめざし、慎重に安全な電力を求めていきましょう。

（奈良由貴）

※九電力とは、北海道電力・東北電力・東京電力・北陸電力・中部電力・関西電力・中国電力・四国電力・九州電力の9つの電力会社をさし、沖縄電力は特殊な設立の経緯があるため歴史的な体制には入らない。

「瞬時のkW(需要)」を調整する「送電網(電氣の池)」



自由化の直前に再エネの固定価格買取制度の見直しで買取義務を送電会社に変更する方針が出された。自然エネルギーを中心に電氣を販売する準備をしてきた小売事業者は消費者が自然エネルギーの電氣を選べる制度設計見直しを求めている。

江戸川・生活者ネットワーク「首相官邸前で」(小英二監督) 設立25周年記念上映会

- 日時: 2016年1月23日(土) 17時30分~19時30分
- 場所: タワーホール船堀2F 桃源
- 参加費: 1,000円 (トークタイム: 現在交渉中)
- 申込み: 江戸川生活者ネットワークまで

江戸川・生活者ネットワークは1990年設立。「近づきたいね!くらしと政治」を最初のスローガンに、政治を市民が使いこなす運動として発足し、2015年3月、25周年を迎えました。

今年は8月に川内原発が再稼働、9月には安保関連法が成立しましたが、これらに反対する多くの人々の運動はさらに広がっています。

江戸川ネットは、設立25周年を記念し、「首相官邸前で」の上映会を企画しました。この映画は、2011年3月に起きた「福島第一原発事故」の後、多くの若者たちが首相官邸前で抗議行動した状況を映画化したものですが、当時、メディアが取り上げることはほとんどありませんでした。

来年7月の参議院選挙から、選挙権は18歳以上となり、若者の政治参加が広がります。市民参加を拡大し、生活者ネットが掲げてきた「市民が主役」の政治を実現するチャンスでもあります。おおぜいみなさんと観て、考えて、行動できたらと思います。ぜひ、ご参加ください。

●小英二監督の言葉より
私は、この出来事を記録したいと思った。自分は歴史家であり、社会学者だ。いま自分がやるべきことは何かといえば、これを記録し、後世に残すことだと思った。なにより、この映画の主演は、映っている人びとすべてだ。その人びとは、性別も世代も、地位も国籍も、出身地も志向もばらばらだ。そうした人びとが、一つの場につどう姿は、稀有のことであると同時に、力強く、美しいと思った。いろいろな見方のできる映画だと思う。見た後で、隣のひとと、率直な感想を話しあってほしい。映画に意味を与えるのは観客であり、その集合体としての社会である。そこから、あなたにとって、また社会にとって、新しいことが生まれるはずだ。

小英二(おぐま・えいじ)プロフィール
1962年東京生まれ。出版社勤務を経て、慶應義塾大学総合政策学部教授。福島原発事故後、積極的に脱原発運動にかかわり、メディア上での発言も多い。

●インフォメーション● エコメッセ元気力発電所 エコツアーのご案内

「野菜も電氣も採れる? ソーラーシェアリングを見に行こう」

- 日時: 1月30日(土) 9:00出発
- 訪問先: 市民エネルギーちば合同会社 建設・運営するソーラーシェアリング施設 (千葉県匝瑳市)
- 講師: 東光弘さん (市民エネルギーちば合同会社代表社員)
- 参加費: 1,000円(予定・お弁当付)
- 申込み: 江戸川・生活者ネットワークまで
- ※人数制限があるためお断りする場合があります。

PV自立電源ワークショップ

中古の太陽光発電パネル(定格出力150W)を使って、台車で移動可能な自立電源システムを組み立てるワークショップです。

- 日時: 2016年1月16日13:00~16:00
- 会場: 寿光院(江戸川区東小松川2丁目5-12)
- 対象: グループ5組程度 (完成後、持ち帰る手段=自動車を用意すること)
- 会費: 実費3万円(予定)、見学のみの資料代500円
- 申込み: 足元から地球温暖化を考える市民ネットなどがわ FAX:03-3654-9188 E-mail:info@sokuon-net.org

生活者ネットワークは 東京の 38年の実績 地域政党です

最も身近な自治体議会に議員を送り、地域から生活の課題を解決していきます。現在35の自治体にそれぞれ生活者ネットワークがあり、区議18人、市議33人、都議3人を擁しています。食品安全、医療、水問題など、東京全体の課題には「東京・生活者ネットワーク」として取り組んでいます。

江戸川・生活者ネットワークのルール

- ◆議員は交代制
議員を職業とせず、参加の層を広げるため、2期8年で交代します。議員経験者はそのキャリアを地域の市民活動に活かします。東京全体で交代した議員が175人、江戸川では4人。現職を合わせると224人の女性議員を誕生させています。
- ◆議員報酬は市民の活動資金に
生活者ネットワークの議席は市民のためのもの。議員は、報酬から経費を引いた額を生活者ネットに寄付し、市民の活動資金にしています。お金の流れはすべて公開しています。
- ◆選挙はカンパとボランティアで
選挙では、候補者が費用負担することなく、カンパとボランティアで行なっています。